

「二元対立」から抜け出そう

倫理研究所 理事長 丸山敏秋

「禍に因(よ)りて福を為す。成敗の転ずるは、たとえば糾(あざな)える繩のごとし」

『史記南越列伝』

どこも閑散としていた異常な大型連休が明けてから、列島各地の様相がずいぶん変わってきました。制限緩和に向けて動き始めたからです。非常事態宣言は、ほどなく全国で解除になるでしょう。強い初夏の陽光が差し気温が上がると、コロナウイルスの活性度は鈍ります。ほぼ予想した通りですが、コロナウイルスが消滅したわけではなく、「自粛」の要請はなおつづき、気を緩めることはできません。

今回のウイルス感染症パニック(コロナ危機)で目立ったことの一つに、地方自治体の頑張りがあります。メカロポリスの首都である東京都は、他の道府県と一緒にではありませんが、それぞれに独自性を発揮して感染から人々を守るために、知事を筆頭に尽力してきました。いま日本では、全国の知事が権限を持って活躍する「知事主導型」になり、中央政府を動かす場合もあるのだと国民は知りました。

それは望ましいことでしょう。東京一極集中を是正し、地方の衰退に歯止めをかける「地方創生」が六年前に発表され、担当大臣も置かれました。けれども首都集中を欲する官僚主義の厚い壁に阻まれ、「創生」は名ばかりでした。それが、全国民を巻き込む危機に遭遇したことで、「地方」の存在感が高まったのはなんと皮肉です。

ところでコロナ危機が抱える難題は、よく言われてきたように、医療と経済がトレードオフの関係に陥っていることにあります。たしかにそう捉えれば「あちらを立てればこちらが立たず」という排他的で矛盾した関係は、解決が非常に困

難です。

医療の立場からすれば、なんとしても医療崩壊を防ぎ、感染者や死者をできるかぎり出さないようにするため、活動の自粛を強く求めます。そうなればおのずと経済活動は麻痺してきて、すでに多くの経営者が青息吐息の状態になりました。それが長期化すれば、間違いなく日本は壊滅してしまいます。

*

トレードオフの関係には、二元対立の構図(対極主義)が前提としてあります。たとえば商品の品質と価格を二元とすると、低品質と低価格、あるいは高品質と高価格は成り立ちますが、高品質で低価格の商品は生まれません。低品質で高価格な詐欺まがいの商品もありませんが、すぐに露見して売れなくなるどころか、会社の信用はがた落ちになるでしょう。品質と価格を三元対立の構図にせず、別の付加価値(たとえばサービス)を組み合わせるなどして売れ筋をつくるのが普通だと思えます。

現代人は、何事も相反する二つの要素や要因から成ると見て、両者を対立させる考え方の傾向が強くなります。物質と精神、善と悪、主観と客観、自己と他者、資本家と労働者…。しかし二元対立の発想は、日本人にはどうも馴染みません。中国を含む東アジアの人々にもしつくりこないでしょう。

なぜなら、たとえば陰と陽の二つは対立的ではあるものの、陰(陽)がなければ陽(陰)は成り立ちません。陰もやがて陽に転じ、陽も陰に変わります。陰中に陽があり、陽中にまた陰があり、互いに他を含み合っています。ゆえにわたしたちは人を見る場合でも、長所と短所を截然とわけて固定化することはありません。冒頭に掲げた言葉「禍福は糾(あざな)える繩(いと)なり」とは、

(次ページにつづく)

